

演題：「砂場あそびのすすめ」～砂場遊びから見る子どもの成長と保育の課題～
講師：同志社女子大学 現代社会学部 現代こども学科 教授 笠間 浩幸 先生

「ただの砂なのに1時間も集中してあそぶこどもの姿」に驚く！

1、歴史：明治から大正にはこどもの遊びの大切さを求め砂場ができた。

ルーツはアメリカ。(スラム街の子に対しての砂場・プレイグランドムーブメント)

2、砂場との出会い：じっくりと砂を見せる「視覚的刺激」、砂でバランスを保つ「深部感覚」、環境に関する情報を全身で受け入れ対応していくことができる。

3、砂であそばない砂遊び：1歳半頃砂場においてもスコップやコップなど、手に持っている物であそぶ。ただの持つものからすくうという道具として使うことを学ぶ。

「物の操作を通して砂遊びを楽しんでいる」

4、砂で遊ぶ砂遊び：2歳以降は全身を使い、感触、水分量、固まるかどうか、手と指との力など「砂に体を触れさせてあそぶ」

5、イメージと言葉を広げる砂あそび：ごっこあそびの中から「イメージの共有とことばの広がり」

6、多様な素材が広げる砂場あそび：砂場では使わないものを使ってみる。「手を出さず見守る中で丁寧にイメージを引きだすことばかけ」が大切。

※砂場とその周辺環境を整えることが大切：ふかふかな砂をたくさん、多様な物を豊富に整える、砂場へのアクセス（日よけ、水場など）

第3分科会「2歳児の遊びに満ちた保育を探る ～絵本を通して結びつく喜び～」

2歳児の主張：「大きくなった自分を認めたい（自分の誇り）」「自分の思いを認めてほしい（自我の要求）」・「自分で！」にこだわり「私も」と模倣し、「もっと」「次は～しよう」と自分で試そうとする。その一方で「見てて！」手は出さないで見てて、でも向こうは向かないで見てて（自立と依存）を両方併せ持っている。

「一緒に活動する時代から、（見守られながら）自分で独立して活動する時代へ」

・2歳児の保育で大切にしたい事

人といることを楽しさが一段と増す・自分というものを支える自我が育まれる時期。

人と一緒にいるって楽しいなと実感し、その自分を大好きになることが大切な時期。

一緒に見たねという共通体験を繰り返し集団づくりより仲間関係を築くことが大切。